

平成24年度

農業振興公社ニュース

第17号

6次産業化を目指す
「みやざきチャレンジ塾」を
開催しました



写真1

8月30日に宮崎市の「ニューウェルシティ宮崎」において、当公社が主催する「みやざき農林水産業経営多角化チャレンジ塾」の開講式を行いました。

チャレンジ塾には、公募による書類審査をクリアした、農林漁業者向けの「グローバル農業法人育成コース（Gコース：24講座）」に24名、経営コンサルタント等向けの「6次化推進プロデューサー育成コース（Pコース：15講座）」に22名、計46名の受講生が揃え、第1期生として入塾されました。



写真2

開講式では、宮脇和寛理事長から受講生46名へ「入塾許可」が宣言され、林渾一九州農政局宮崎地域センター長から受講生に対し激励の祝辞を頂き、最後に受講生を代表して、Gコースの中神正博氏とPコースの和田翼氏より6次産業化を目指す力強い代表挨拶がありました（写真2）。

チャレンジ塾は、開講式終了後のNHK解説委員の合瀬宏毅氏の「6次産業化概論」を皮切りに10



写真3

月までの2ヶ月間、「ホテルプラザ宮崎」において毎週1回ベGコースは水曜日、Pコースは金曜日）の講座が開催さ

れております（写真3）。受講生にとって、このチャレンジ塾が、自身のスキルアップと目指す6次産業化へ向けた経営のステップアップや支援活動へ繋がることを期待しております。

「みやざき6次産業化推進大会」を開催しました

「チャレンジ塾」開講式に引き続き、同会場において、県と当公社の共催による「みやざき6次産業化推進大会」が、県内の農林漁業者をはじめ、農業関係団体、商工団体、金融機関、行政関係者等約400名の参加のもと盛会に開催されました。本大会は、6次産業化に関する意識の醸成並びに意欲の向上を図り、本県における6次産業化の取組みを促進すること、農林水産業の高付加価値化や産業振興に伴う地域の活性化を図ることを目的としております。



写真4

開会式では、主催者の河野俊嗣宮崎県知事、来賓者の吉村馨九州農政局長より御挨拶をいただいた後、工藤

明也宮崎県地域農業推進課連携推進室長より「宮崎県における6次産業化の推進に向けた取組み」について説明がありました。また、基調講演として、NHK解説委員の合瀬宏毅氏より「6次産業化と宮崎農業の未来」と題して、6次産業化による地域産業の活性化について全国の取組み事例を紹介しながらわかりやすく講演いただきました。（写真4）

最後に、高峰由美6次産業化プランナー（県産業支援財団コーディネーター）のコーディネートにより、県内で6次産業化を実践されている5名の農業法人代表者の方々がパネリストに、「私、あなたの6次産業化」をテーマにパネルディスカッションを行いました。会場の参加者は各パネリストの6次化に関し質問を行うなど熱心に聴講していました（写真5）。

「新農業支援課」



写真5



みやざき6次

（宮崎県の6次化マスコットキャラクター）

農業研修始まる!

9月、実りの季節。そしてそれは宮崎冬野菜の、宮崎農業の出番到来となります。そんな中、新規就農へ向かっているたくさんの方々がおられます。今回は、そんな頑張る皆さんの近況をお伝えしましょう。

「みやざき農業実践塾」高鍋町の農大校内にあり、今年も13名の方々が勉強されています。圃場では皆さん整地や苗作りに忙しい様子。ハウスに入り、お二人から話を聞くことができました。



日向市出身の宮前さん、「畝立てがすみ、明日定植です。パソコンで日常の作業や計画を管理し、地元の農地深しに動い

ています。」兵庫出身の森本さん「私もミニトマトの苗作りに一工夫しています。兵庫の親も興味あるようですよ。」お二人の話を聞き、順調に研修を進めておられると感じました。

「JA宮崎中央研修センター」宮崎市高岡町にあり、10名研修

中です。今日は青空の下、皆でハウス組み立てをされていました。「構造はわかるし、きつと役立ちますよ」と日高先生。県外出身の川添さん、持原さん、二人とも宮崎市熊野に住み通学?中。「大変なことも予想以上にたくさんあります。でも、太陽の光を浴び仕事のできる毎日です。午後からは、普及センター主催の研修会ですよ」と明るく、きりりと話されました。



青空とみなさん

県内各地には、たくさんの方々がJAや先進農家で研修に取り組みられています。私達関係機関も、より一層力を合わせ、しっかりと応援していきたいものです。

青年就農給付金事業「準備型」の第二回募集が始まります!

本年度から、就農前の研修段階や就農初期段階の青年に対して年間百五十万円を給付する青年就農給付金事業がスタートしましたが10月1日から研修段階の準備型を対象に今年度二回目の募集が始まりました。

●準備型とは

就農に向けて、県の農業大学校等の農業経営者育成教育機関等(先進農家等含む)で研修を受ける者に対して給付金を給付する事業(最長二年間)

●給付対象者の要件等

- ① 就農予定時年齢が、原則45歳未満で農業経営者となる強い意欲を有していること
- ② 県が認める研修機関、先進農家又は先進農業法人で研修を受けること
- ③ 研修期間が概ね一年かつ概ね千二百時間以上であること
- ④ 研修終了後一年以内に独立自営就農又は雇用就農すること

●募集期間及び問い合わせ先

- ・平成24年10月1日～26日
- ・宮崎県農業振興公社

担い手支援課

(0985・51・2011)

新規就農・農業就職相談会を開催します!



新規就農の手順についての説明相談、農業法人からの会社説明、体験・研修、農地、ハウスや機械などの各種相談、他産業から農業に参入を希望する法人相談など、各担当者が個別に応じます。自営就農や農業法人への就職をお考えの方は、是非ご参加ください。予約は不要です。お気軽にお越しください。

日時 平成24年11月4日(日)

10時～15時まで

(受付は9時30分から)

場所 ホテルプラザ宮崎 別館

2階ロイヤルホール

●主な相談コーナー

- ・総合相談、青年就農給付金、各農業法人・市町村・JA・みやざき農業実践塾・ハローワーク・農地・ハウス、農機レンタル等

「担い手支援課」



【優良農地フル活用
推進事業】

国は、力強い農業の実現に向けて、人と農地の問題を解決する、「人・農地プラン」事業を創設し、新規就農者の定着率の向上や農地集積の推進に取り組むとしています。これを受け、現在、市町村において、「人・農地プラン」の策定が進められています。

この中で、農地集積については、農地の出し手には本年度から「農地集積協力金」が、農地の受け手には引き続き「規模拡大加算金」が支払われる制度を実施することとしています。

県においては、国の農地集積協力金交付事業の他、県単独事業で口蹄疫埋却地の活用を促進及び、葉たばこ・飼料作からの経営転換にかかる面的集積等を推進するため「優良農地フル活用推進事業」を実施することとしています。

国の制度はいずれも利用権の移転（貸借）への助成ですが、県単独事業は、農地保有合理化事業又は農地利用集積円滑化事業を活用する利用権の移転に加え、所有権移転にも助成されます。

将来の地域の農業農村のあり方などを話し合い、作り上げていく

「人・農地プラン」の成否の鍵は、農地の集約にかかっています。県の制度を有効に活用し、地域の農業振興を図って頂きたいと考えております。

県単独事業の農地集積にかかるメニューの概要を御紹介します。

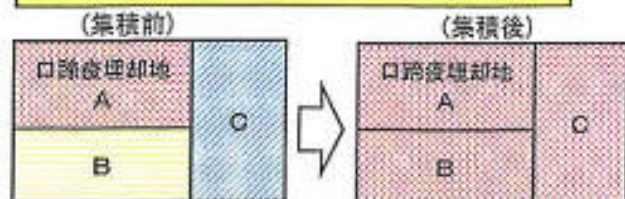
【各メニュー共通事項】

- ① 人・農地プランに位置づけられた農地の集積であること
- ② 農地保有合理化事業又は農地利用集積円滑化事業による所有権移転又は利用権の移転（農作業受委託は補助対象外）
- ③ 利用権については、10年以上を委任期間として、8年以上の利用権の設定を行うこと
- ④ 事業対象農地は水田、畑、菜草放牧地

【農地課】

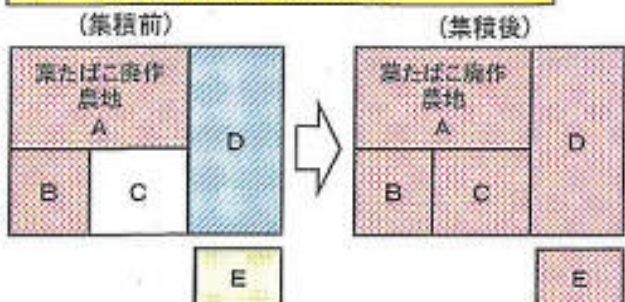


1 口蹄疫埋却地活用関係集積交付金



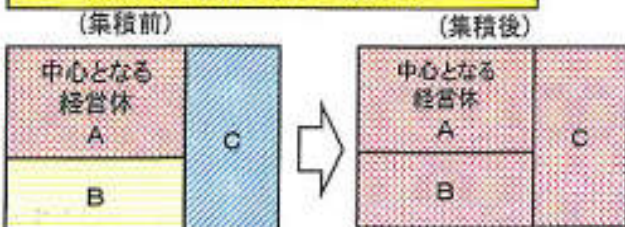
- ①対象農地：口蹄疫埋却地及び隣接農地BC(第三者の集積ならAも助成対象)
- ②交付対象者：当該農地の出し手・受け手
- ③交付単価：25,000円/10a

2 耕種作物転換集積交付金



- ①対象農地：葉たばこ(H23～)又は飼料作(H22～)作付農地及び規模拡大のため集積した周辺農地CDE(Eは人・農地プランで設定された集積範囲内の場合助成対象)(第三者の集積ならAとBも助成対象)
※平成24年4月6日以降の利用権設定等が対象
- ②交付対象者：当該農地の受け手
- ③交付単価：20,000円/10a

3 分散錯圖解消協力金(畑地)



- ①対象農地：旧作経営を主とする経営体が耕作する農地に隣接する農地(農地B、C)
- ②交付対象者：当該農地の出し手
- ③交付単価：5,000円/10a

規模拡大を目指して



新築牛舎を前に胸膨らむ
敏郎さん(御子息)と百合さん(奥様)

永緑和幸さん(都城市高城町)は、ご夫婦で酪農専業農家を営んでおられ、自宅敷地内で約20頭規模の繋ぎ牛舎を利用して、経営を行ってきました。しかし、近年、自宅周辺の宅地化が進み、環境的にも厳しい状況となり、牛舎移転を検討していました。また、息子の敏郎さん(30)が、高校卒業と同時に家業を手伝うようになり将来的には規模拡大の夢を持ち、ヘルパーの仕事を通じて、他の酪農家の飼育方法や経営方法を学んでこられました。これらの技術を自分の経営に活かしたいとの思いから、和幸さんは「畜産担い手育成総合整備事業」を活用して乳牛

舎の建設を決意されました。牛舎建設に当たっては、牛舎設計協議に加え、施設用地や埋蔵文化財、水の確保等と幾多の課題に直面し、これらの解決に相当な時間を費やしたため、工事着工が遅れるとともに、年明けからの悪天候により工事が遅々として進まない状況でありましたが、関係者等の協力のもと、この春に乳牛舎が完成しました。

新しい牛舎は、鉄骨造りの40頭規模のつなぎ式で、育成牛房も併設しており、搾乳機器の自動化や糞尿搬出の機械化など、近代的な牛舎となっています。

酪農関係者に最近の牛乳需要等を聞きますと、「東日本震災等により全国的に牛乳の絶対量が不足しており、永緑さんの増頭による乳量の増産を大いに期待したい。」とのことでした。

今後、安定的な酪農経営が叶う事で今回の投資効果もあつたものと考えられます。

今後更なる規模拡大を目指してより一層頑張る頂きたいものと考えております。



40頭規模の乳牛舎

【事業の概要】

- 総事業費 73,000千円
- 飼料畑造成 0.4ha
- 施設整備 乳牛舎1棟 (844㎡)
- 設備機器 搾乳機器、糞尿搬出機等一式



主び行事予定

- 10月20日(土) 新・農人フェア2012 (東京都)
- 11月4日(日) 宮崎県新規就農・農業就職相談会 (宮崎市)
- 11月9日(金) みやざき農林水産業経営多角化チャレンジ塾開講式 (宮崎市)
- 11月10日(土) 宮崎県移住相談会 (東京都)



【総務課】

【畜産施設課】



発行

公益社団法人 宮崎県農業振興公社
宮崎市恒久一丁目七番地十四
TEL(0985)1511201
FAX(0985)1511800
HP <http://www.mnk.or.jp/>